

平成29年度

第2回 大垣市環境審議会会議録

(平成29年9月29日)

## 平成 29 年度 第 2 回 大垣市環境審議会会議録

平成 29 年度第 2 回大垣市環境審議会を、平成 29 年 9 月 29 日（金）大垣市役所本庁舎 3 階合同委員会室において開催した。

その次第は、次のとおりである。

次第 1 開会あいさつ

2 議事

(1) (仮称) 大垣市エコ水都環境プラン（大垣市第 3 期環境基本計画）の策定について

本日の委員の出欠席は、次のとおりである。

出席委員 永瀬 久光 委員、横井 香織 委員、伊東 誠 委員、  
渡辺 貞子 委員、服部 淑子 委員、後藤 文夫 委員、  
大洞 とく枝 委員、岡部 哲也 委員、成瀬 重雄 委員、  
森部 圭一 委員、柳田 美樹 委員、小塚 康弘 委員

欠席委員 小林 信介 委員

本日の会議出席者は、次のとおりである。

生活環境部長 馬淵 尚樹、環境衛生課長 高木 昭胤、  
環境衛生課新エネルギー政策対策官 青井 明彦、環境衛生課主幹 坂尾 勝彦、  
環境衛生課主査 川崎 誠、環境衛生課主事 森本 崇、  
(株)総合環境計画 3 名（オブザーバー）

本日の書記は次のとおりである。

環境衛生課主査 川崎 誠

(開会時刻 午後 1 時 27 分)

事務局（生活環境部長）

定刻よりも少し早いですが、ただ今から平成 29 年度第 2 回大垣市環境審議会を開催させていただきます。本日はお忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は大垣市生活環境部長の馬淵でございます。本日の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして永瀬会長からご挨拶を頂戴したいと存じ上げますのでよろしくお願いいたします。

永瀬会長

皆さんこんにちは。本日の環境審議会、議題は一件だけで、大垣市の第 3 期環境基本計画についてです。前回諮問と概要説明を受け、今回初めての審議・議論をすることになります。市民の方、或いは事業者の方へのアンケートの結果のご報告を頂けると思います。それらを踏まえまして、次の第 3 期環境基本計画の方向性が打ち出せたらと思いますので、皆さん、忌憚のないご意見をどしどしいただきたいと思っております。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（生活環境部長）

ありがとうございました。続きまして、本日の審議会成立のご報告をさせていただきます。本日、「小林信介委員」から、ご欠席のご連絡をいただいておりますが、出席委員が過半数に達しておりますので、大垣市環境審議会規則第 3 条第 2 項の規定によりまして、本審議会が成立していることをご報告を申し上げます。

それでは、これより議事に移りたいと存じます。

審議会規則第 3 条の規定により、会議の議長は、会長を務めることとなっておりますので、議事の進行につきましては、永瀬会長にお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

永瀬会長

それでは、これより議長を務めさせていただきます。議事の進行がスムーズに行きますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、傍聴者ですが、今回 1 名の傍聴希望がありました。

大垣市環境審議会規則第 4 条により、市内在住の●●●●様からの傍聴の申し出がありましたので、傍聴を認めることに賛成の方は、挙手をお願いいたします。

**【傍聴賛成者過半数以上】**

出席委員の過半数の挙手がありましたので、傍聴を認めます。

入室をお願いいたします。

**【傍聴者入室】**

次に、本日の会議録署名者についてですが、私の方から指名をさせていた

永瀬会長

だきたいと思います。横井香織委員と柳田美樹委員にお願いしたいと思  
います。

それでは議事に入りたいと思います。

議題（１）（仮称）大垣市エコ水都環境プラン（大垣市第３期環境基本計画）  
の策定について、事務局より説明をお願いします。

事務局（青井対策官）

事務局を担当しております、環境衛生課の青井と申します。

座って説明をさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。

それでは、議題（１）の（仮称）大垣市エコ水都環境プラン（大垣市第  
３期環境基本計画）の策定について説明をさせていただきます。

前回の審議会におきまして、環境基本計画の見直しについて諮問を受けた  
後、今後のスケジュール説明と簡単なご説明をさせていただきましたが、そ  
の後、市民・事業者アンケートの結果や環境政策に対する現況課題の整理、  
または国・県等の動向をふまえて、現計画の６つの目標に対するそれぞ  
れの個別目標の見直しの方向性について、今回提案をさせていただくとい  
うことでございますので、よろしくお願ひいたします。

「資料No.1」をご覧ください。「（仮称）大垣市エコ水都環境プラン（大垣  
市第３期環境基本計画）の策定について」ということで、概要を示してあり  
ます。仮称でございますので、名称についても、皆様にご検討いただいて、  
最終的に決めていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

一つ目の「計画策定の趣旨」ですが、平成12年3月に「ハリンコが泳ぎ、  
ホテルが舞う 水都・大垣」を市の望ましい環境像とする「大垣市環境基本  
計画」を策定し、その後、市町の合併や社会情報の変化などにより計画の改  
定を行い、平成21年3月に「大垣市環境基本計画改訂版」を策定してあり  
ます。

またその後、平成25年3月にはその改訂版の後期計画ということで、現  
計画である「大垣市環境基本計画改訂版（後期計画）」を策定し、それぞれの  
改訂版の前期・後期計画に対する行動計画の位置付けとして、エコ水都アク  
シヨンプランを、それぞれ平成21年3月と平成25年3月に策定してあり  
ます。

これらの計画について、今年度平成29年度が最終年度となるため、平成  
30年度からスタートする新たな計画が必要になるという事で、今年度ご検  
討いただくということでございます。

二つ目の「策定の基本的な考え方」ということで、現計画について、どれ  
を見直すかという事ですが、現計画における市の望ましい環境像「ハリンコ  
が泳ぎ、ホテルが舞う 水都・大垣」についてはそのまま継承し、「基本目標」  
や「具体的指標」、「個別目標」、「個別指標」など、具体的な項目について大  
幅に見直して、施策の重点化等を行うということでございます。

見直しにあたっての論点、キーワードということで、5つ程提案をさせて

いただいております。まず一つ目が、水都・大垣を象徴する「豊富な地下水」、二つ目がエネルギー政策を含めた地球温暖化防止対策である「低炭素化」、三つ目がふるさと大垣の貴重な自然を継承し、次世代に引き継いでいく「自然共生」、四つ目に資源を循環する社会を築く「資源循環」、五つ目に市民・事業者・行政の各主体による「協働・連携」ということで、この5つの論点・視点から見直しをしたいと考えております。

三つ目ですが、計画策定に関する当審議会の開催状況及び予定ということで、第1回が7月26日に開催をさせていただきました。この時には、見直しの諮問を受けております。第2回が本日でございますが、課題の整理、アンケート結果、見直しの方向性ということでご説明をさせていただきたいと考えております。

今後でございますが、第3回は11月中旬～下旬にかけて開催の予定で、計画の素案をご提示していくということでございます。

それから第4回の審議会ですが、年明けの2月中旬～下旬の予定ですが、最終的な計画案ということで、ご提示させていただいて、当審議会からの答申を得たいと考えております。

四つ目、今後の予定ですが、11月初旬から中旬で計画の素案の策定の作業を進めていきたいと思っております。その後、12月中旬には議会の方への素案の報告という形になります。その素案の報告と12月下旬から年明け1月下旬にかけて、約1か月間ですがパブリックコメントを実施させていただいて市民の皆様からのご意見を頂く、という予定です。

2月初旬から中旬にかけて計画案の策定をさせていただき、この計画案について3月の議会の方に報告をし、最終的には3月下旬、年度末でございますが、計画の策定という流れで考えております。以上、概要でございます。

「資料No.2」ですが、こちらが前回ご説明した「まとめ中である」と報告をさせていただいたアンケート結果です。概要の方をご説明させていただきます。なお、「資料No.4-1から4-3」「資料No.5-1から5-3」が後ろの方に付いていると思っておりますが、こちらが市民・事業者のアンケートの文章そのままと、単純な集計結果となっておりますのでご確認いただければと思います。

「資料No.2」の1ページ目ですが、調査概要ということで、調査の期間が平成29年6月13日から6月30日、調査対象が市民が無作為抽出、事業者が公害防止協定締結事業所と無作為抽出、市民が1000件、事業者が200件ということでアンケートを発送しております。

回収率としては、市民が43.9%、事業者が59.0%という結果でした。

次に市民アンケートの結果の概要です。

「1. 10年前と比べた環境の変化」ということで、その結果です。

良くなったと思うものとして回答が多かったのは、下から6番目の「ごみの処理、リサイクル」が54.9%、次いで下から4番目の「歴史的・文化的雰囲気」が28.2%、3つ目に「水や川のきれいさ」が26.7%という結果でした。

逆に、悪くなったものとして回答が多かったのは、上から3番目の「静け

さ（車などの騒音に対して）」が 43.7%、次いで上から 5 番目の「農業の活発さ」が 27.8%、3つ目が上から 8 番目の「公共交通の便利さ」が 22.6%という結果でした。

続きまして 2 ページですが、「2. 環境に関する取り組みの重要度・満足度」についての結果ですが、まず、満足度、「満足」と「やや満足」を足した数ですが、この満足度が高いと感じている取り組みは、「ア. 地下水や湧水に代表される大垣の水の保全」が 62.0%、次いで「イ. ハリヨやホテルなど水辺の生き物の保護」が 42.4%、次いで「オ. ごみの減量、資源化をはかるための 4R の推進」が 31.9%となっております。こちらの満足度としましては、地下水やハリヨ・ホテルなど、水環境への満足度が高いという結果でした。

続いて 3 ページですが、重要度、「非常に重要」と「やや重要」を足した数で、重要度が高いと感じている取り組みは、「ア. 地下水や湧水に代表される大垣の水の保全」が 82.9%、次いで「ウ. 河川の汚染防止や水質浄化」が 82.3%、次いで「イ. ハリヨやホテルなど水辺の生き物の保護」が 75.1%となっており、こちら重要度については、満足度と同様に水環境に関するものが高かったという結果でした。

続いて 4 ページですが、環境に関する取り組みの各要素に対する重要度・満足度の回答について、下記の表のように点数を付け、回答者数で割った値を整理したものが下の表となります。

重要度・満足度の相互関係によって評価すると、重要度・満足度が共に平均を上回っているというのが右上になり、「ア. 地下水や湧水に代表される大垣の水の保全」「イ. ハリヨやホテルなど水辺の生き物の保護」「エ. 地域での清掃など環境美化活動の実施」「オ. ゴみの減量、資源化をはかるための 4R の推進」「サ. 公園・緑地の整備や緑化の推進」ということになっております。

一方、重要度は高いが満足度が低いというものが左上になりますが、「ク. 大気、水質、騒音、悪臭など公害防止のための向上や事業所に対する指導」や「ウ. 河川の汚染防止や水質浄化」、或いは「カ. 地球温暖化対策や省エネルギー対策の推進」というような項目が入っております。

次に 5 ページですが、「3. 市民が望む将来のまちの姿」ということで、一番数字が高かったのが「水や川がきれいなまち」が 68.8%、次いで「ごみがないきれいなまち」が 32.3%、次いで「空気がきれいなまち」が 27.1%という結果で、こちらについても水に対する関心が強いという結果が出ております。

続いて 6 ページですが、「4. 環境に負担をかけないための取り組み」ということで、実行しているは「いつも実行している」と「時々実行している」の数字を足したものですが、回答が多かったのは「エ. ゴみの削減や分別による資源化を心掛けている」が 88.8%、「カ. テレビや照明をこまめに消している」が 86.6%、「ア. 水の出しすぎや使い過ぎに注意している」が 85.0%という結果になっております。

ボランティア等の参加型の取り組みである「タ. 河川清掃や環境イベントなどに参加する」や「ナ. 環境ボランティアなどに参加している」の回答は

少なかったものの「実行する予定」或いは「実行したいができない」の回答が50%以上となっており、活動に関する関心の高さがうかがえる結果となっています。また、自治会等の活動の一環で参加する機会があると考えられる「オ. 地域の清掃への参加に参加している」の回答は比較的多くなっているという結果でした。

次に7ページですが、「5. 環境を良くするために事業者に期待すること」ということで、一番多かったのが「大気、水質、騒音、悪臭などの公害防止」で62.4%、次いで「排水や有害化学物質の適正管理」が53.1%、3番目が「廃棄物の適正処理、減量化、再生利用、再資源化」が38.3%という結果でした。

次の6. 環境を良くするために大垣市が重点的に取り組むべきことというところで、こちらで一番多かったのが「水環境・土壌環境の保全」で38.7%、次いで「騒音・振動・悪臭の防止」が32.8%、次いで「良好な水辺の整備と形成」が29.2%というところで、こちらの方も水環境・土壌環境といったところに関心が高いという事が結果として表れています。

次の8ページ・9ページですが、事業者アンケートの概要です。

「1. 環境に負担をかけないための取り組み」について、事業者の環境に負担をかけないための取り組みで、実行しているものとして「サ. リユース・リサイクルを考慮した分別の徹底」が84.7%、次いで「コ. 廃棄物の適正処理・減量化」が83.9%、続いて「ウ. 大気・水質・騒音・悪臭などの公害防止」が77.1%という結果でした。

9ページの「2. 環境を良くするために大垣市が重点的に取り組むべきこと」で、「水環境・土壌環境の保全」が36.4%、次いで「魅力ある景観の保全と創造」が31.4%、続いて「豊かな緑の創造と育成」「良好な水辺の整備と形成」がそれぞれ26.3%というような結果です。事業者においても、市民と同様、「水環境・土壌環境の保全」についての関心が高いというような結果でした。

以上が、市民・事業者アンケートの概要でございます。

続いて「資料No.3」ですが、こちらが各現計画の目標における見直しの方向性の案という事で資料を作らせていただきました。

まず1ページ目ですが、基本目標1から基本目標6までありますが、基本目標1の「水の潤いのあふれるまち」をまとめたものがこちらになります。

一番左側から基本目標、個別目標、個別指標、基準値は平成23年度の値が入っており、その隣、環境基本計画目標値は平成29年度の目標値です。

その隣がエコ水都アクションプランの年次目標ということで、昨年度平成28年度の目標値を表しております。その隣に、市民・事業者アンケートが書いてありますが、各個別目標に関連するようなアンケートの問いは、こういったところの問いでしたという事が、分けて表記してあります。その隣に、アンケートの結果を受け、動向を簡単に記載してあります。その隣に、現況及び課題の整理という事で、これまでの環境施策に対しての現状や課題がどうかという事をまとめてあります。その右側に、国等の動向という事で、前回の見直しが24年度でしたので、その後の国や県の動きを抜粋でまとめて

あります。で、一番右側に見直しの方向性（案）ということで、「継続実施」や「一部見直し」等書いてありますが、大まかな基準として、右上の四角の中に書いてありますが、「見直しの方向性の基準」という事で、「見直し」は現計画の個別目標の削除等を見直し、「一部見直し」は個別目標の表現方法・内容等を見直すという事です。それから「継続実施」については、現在の個別目標はそのまま引き継いで、個別指標等を新たに設定して継続的に実施していくという事で、こちらを「継続実施」という形で説明表現しています。その見直しの方向性の基準をもって、それぞれの個別目標を検討させていただき表したものが、一番右側の「見直しの方向性（案）」となります。

事前に資料を配布しておりますので、説明を省略させていただきますが、例えば「1-2」が「一部見直し」となっておりますが、現計画では「水生生物の保護」ということで個別目標を設定しており、その名称自身を「希少生物の保護」といった形で今の時代に合った呼び方に見直したらどうかという提案です。

例えば、次の「1-3」の「排水対策」という事で個別目標となっておりますが、こちらも「水質汚濁防止」というような名称でどうかということで「一部見直し」としております。

あと、ざっと見ていただくと、「見直し」が一つあり、4ページですが、「4-3」の「景観」で、「現況及び課題の整理」の項目で3つ目に『歴史・文化は広義では環境ととらえることができるが、環境にはそぐわない点もみられる。景観を緑化推進の一部として捉え、緑化推進に統合を図る』という事で、「景観」を個別目標については名称自身としては削除してはどうかということで「見直し」という形にしています。

あとは、後程見ていただき、それらを整理したものが一番最後のカラー刷りにした資料です。

こちらが現行計画の個別目標について、国・県の動向や現況を考慮して見直しを行った上で基本目標或いは個別目標の新分類について再編・整理を行った案ですが、中身については、一番左側が現行計画の基本目標1から6の個別目標を書いたものです。これらを見直し、国・県の動向、現況意識調査の結果、課題の整理などを行う事によって現行計画の名称等の修正を加えたのが真ん中の表になります。赤字表記の部分が名称等を変更したものです。

それらを、基本目標・個別目標の再編という事で、先ほど説明をした5つのキーワードに再度振り分けて整理したものが、一番右側の表になります。

1つ目の「豊富な地下水」については4項目、豊富な地下水、安全な地下水、希少生物の保護、地下水の利活用、2つ目の「低炭素化」については5項目、地球温暖化対策、新エネルギー、省エネルギー、次世代自動車、公共交通機関の充実、3つ目の「自然共生」については7項目、水質汚濁防止、大気汚染・悪臭防止、騒音・振動対策、環境監視、緑化推進、生物多様性の保全、森林の保全・活用、4つ目の「資源循環」については4項目、ゴミの減量、ごみの再資源化、環境美化、食の地産地消、5つ目の「協働・連携」については7項目、環境教育・環境学習、環境情報、環境イベント、環境行動、行動支援、市民協働、人材育成という形で再編成を行いました。



事務局（青井対策官）

こちらは、あくまで案ですので、本日ご意見を頂けたらと思います。  
今回提案したこの整理について、了承を得られればですが、その後各個別目標に対する指標や目標値の設定を今後行い、その個別目標にぶら下がっていく環境施策や行動主体などを決めていきたいと思っておりますので、本日、こういった整理の仕方でのいかどうかというところをご検討いただけたらと思います。説明については以上です。

永瀬会長

説明ありがとうございました。それでは今の説明について、何かご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

柳田委員

大垣は水がきれいで、水の重要度がこの中でも大切なのはわかるが、私の感覚では水はきれいで、これから進めていく中でそんなに重要視する必要があるのか、現状維持でも良いのではないのかと思っていて、もちろん大事なんですけど、これから10年間進めていくのに、もっと大切な事はないのかなと思ったんですが、大垣市民としてはもちろん水は・・・というのがあって、重要と皆思っているんだけど、本当にそれだけを重点にしていいいのか。今後の目玉を水だけに絞るのか、温暖化とかそっちも・・・2本の柱みたいにしていくのか。

事務局（青井対策官）

水に関しては現状維持という目標もあると思いますが、例えば河川環境で言うと、一部では環境基準を達成していないところもあり、今後も対策をとっていかなければいけない部分もありますし、大垣市を他の街と比べた場合に、特色を出せる部分は、今言われたように「水」という部分はどうしても出てくると思うので、今回もこの再編する中であえてこの「豊富な地下水」を一番頭に持ってきて、大垣市の売りにしたい部分ですので、その辺を引き続きという形でやっていきたい思いがある。

当然温暖化対策についても、水の熱エネルギーを使った低炭素というものもあるので、併せてやっていきたいと考えている。

議長（永瀬会長）

アンケートの一番最初、概要の1ページを見ると、「水や川のきれいさ」が「良くなった」と感じている人が26.7%で、「悪くなった」と感じている人が19.8%と、回答率が接近していますよね。水で、「良くなった」と感じている人は確かに多いですが、「悪くなった」と感じている人がこんなにいるというのが意外でした。良くなったと思う人はいるが、自分の近くの所なのか、自分がいつも見ている所なのか分からないが、「悪くなった」と感じる人が5人に1人も居るとするのは、全体で「良くなった」のが多ければ、「悪くなった」のは少なくなるのが普通だと思っていましたが・・・。どちらも拮抗しているのは、地域によって・・・自分の見る場所によっても違うのかなと、感じ方によるのかもしれないが、すべてが良くなっている感じでは無いのかなと、このアンケートを見て思いました

小塚委員

水意識は、大垣市の住民にとって大きいもので、やはり、先ほど会長が言われた様に、良くなっている、悪くなっているという常に環境を考えた時に、まず最初に市民として指標になるのが「水のきれいさ」とか「汚れ」といったものを持っていると思います。子どもたちも、やはり大垣市の特色という、「水」を挙げる子が大半ですので、大垣の特色としてこのまま残して行くべきものなので大事にしていきたいと思うのと、意識しているからこそ、もっと良いところ、そういった面をもっと市民にアピールするような事も対策を考えていくのと、もう一つ、意識しているから何かの形で市として、又は、審議会として水について「こんな風に良いんだよ」という事をアピールするような事をして、更に意識化、水が汚れないような、またはきれいなままっというような事も考えていくと良いなと思います。

議長（永瀬委員）

他には。自由に発言してください。

成瀬委員

大垣市のおかげというか皆様のおかげで水門川の水も非常にきれいになってきたが、それは昔と今を比べて良くなったという事で、本当にきれいなんでしょうか。子どもが川の中に入って遊んだりだとか、水遊びをしたりだとか、見たことが無いので、「良かった」では無く、まだ「不十分」なんじゃないかなという気がしますので、ここで「良くなってきたから（水を）はずす」という事はまだ早いのではないかと。もう少しきれいな「水」っていうのを再現できるといいかなと思います。

森部委員

2つありまして、1つは7ページの方では分類が5つあってそれぞれに個別目標がぶら下がる形になっています。現計画では、基本目標が「水の潤いのあふれるまち」とか、こういった項目が、今度は「豊富な地下水」といったものに個別目標がぶら下がって行く形になるのか。

2つ目は要望ですが、「水」は大垣市では大きな要素だと思います。私は南の方に住んでいますが、地下水というより川のイメージが強くて、そういう意味で、地下水というのは現計画の重要なキーワードになっているのは理解できるが、「川」の要素が後退しないよう、柱建てというよりも中身として「川」も含めた水環境というのがしっかり位置付けられる様にお願いしたいというのが要望です。

事務局（青井対策官）

1つ目のお話についてですが、現在5つある分類の中でそれぞれのキーワードに個別目標がぶら下がっていくという形になると思います。もう一つ、それぞれのキーワードのところにキャッチフレーズのようなものが作れればと。現計画でも各目標について、（キャッチフレーズが）ありますので、こういったものが作れればと考えているので、今後提案したいと思います。

河川の水質について、例えば、水門川についても確かに以前よりきれいにはなったという事で、平成20年、21年位に、河川のランクで言う、DランクからCランクになったという事で、一応ランクはアップしているが、所詮はCランクというのが現状で、河川のランクではAAからEまであります

事務局（青井対策官）

が、当然 C から B へ、B から A へというような対策をとって行く必要があると思うので、その辺り、引き続きという様に考えています。

岡部委員

水質という事で言いますと、大垣市で環境市民フェスティバルが毎年開催されていて、環境・エコというのをテーマにやってみえますが、私は15年ほど前から参加していて、10年程前に、小学生の作文で、その小学生の女の子の近所の河川はきれいではなかったのだと思うが「川をきれいにするには、色々頑張らなくてはならないが、人間の心をきれいにしないと川はきれいにならない」と小学生が作文として書いていたのを見て、事業所の立場として考えさせられたのを思い出しました。

ここ最近では、私ども企業から中学校に出向いて、中学校の生徒さんに環境の教育をさせていただくとか機会があるが、やはり小さいころから或いは大人になってからでもそうなんだろうが、環境教育というところに重点を置いて意識付けをしていかないと、なかなか環境改善といったものが出てこないのかなと感じております。

大洞委員

環境教育・・・授業時間が減っていく中で、授業に取り入れてもらうのは難しいとは思いますが、子どもの頃から環境への意識、そして自分のできることは何かという「心と実行性」を育ててほしいと切に思います。私共も、中学校へ呼んでいただけた事があったので、機会があるのなら喜んで伺う。学校の方で子どもの頃から「心」、「行動」を養っていただけたらありがたいと思います。

もう1つ、「ハリンコが泳ぎ、ホタルが舞う水都・大垣」とあるが、私が実際に見たのは、昔、ヤナゲンに水槽があり、そこでどこでも生息するものではないと知った。はたして、市民はハリンコがどういう魚なのか知っているのだろうか。市役所にハリンコを展示し、ハリンコがどんな魚なのかを知ってもらえるようにできないのかと思うのですが。

事務局（青井対策官）

なかなか難しいのですが、県の条例で簡単に移動させられないというのがあり、その辺の魚を水槽に入れて見てくださいと言うような事が出来ない。

また、水温が14℃～15℃位でないとし息できないというものもあるので難しい。以前、市役所のロビーで映像を流していたことはあった。

市民アンケート結果の4ページのところに、『「ハリヨ」についてどの程度知っていますか。』『「ハリヨ」が市の魚であることを知っていますか。』という質問があり、「特徴も良く知っている」が29.4%、「名前だけ知っている」が55.6%という結果で、かなりの方がご存知ではないかと考えられる。また、『「ハリヨ」が市の魚であることを知っていますか』については、59.5%の方がご存知という事で、この辺り、敢てアンケートに中に入れさせてもらったのですが、比較的浸透しているのかなと思われる。

後藤委員

興文小学校で、2～3年生を対象にハリンコ教室をやっている。実際のハリンコを持ってきてもらったりして、ハリンコの生態を説明してもらって

後藤委員	<p>る。子ども達も、初めて見るという子が多い。環境教育の一環として行っている。水門川の清掃活動も行っており、小学生や保護者など千人ぐらい来てくれる。これも一つの教育になっていると思う。</p> <p>豊富な地下水とあるが、どれぐらい地下水はもつのか。私の子どもの頃は、各家庭どこも井戸水だったが、豊富な地下水はいつか無くなったりしないのか。</p>
事務局（青井対策官）	<p>基本的に地下水は使いすぎなければ残っていくものですし、水位で言うと、昔に比べると地下水位は上昇気味である。街中で言うと、繊維会社が撤退されたので、使用される部分が昔ほど無いため、井戸屋さんに聞くと、水余り状態だとのこと。逆に、そういった出てくる地下水を、省エネ等に利用していくというのが今後の課題だと考える。</p> <p>事業所に対しては、自主規制ではあるが、事業者の地下水汲み上げの規制などの対策を引き続き行う。</p>
事務局（高木課長）	<p>60代～70代の方がイメージされる地下水とか川のイメージと、今の子達の持つイメージにギャップがある。これからの子達にとって、なんとか資源を確保していくという事ではないのかなと思う。</p>
服部委員	<p>地下水が豊富と言われた越前大野や伊予西条など視察に行ったが、かつては「かつては地下水が豊富で」といったふうで、今は枯渇に近い状態だと。それに比べると、大垣はまだ豊富にあると言われているので、これからもそれは大事な宝物にしてほしいと思いました。</p>
伊東委員	<p>「資料No.1」で、2策定の基本的な考え方を讀んだ時に、今回見直しの論点は5つ認識されているが、この5つはどこから出てきたのか、説明があったのか。</p>
事務局（青井対策官）	<p>あくまで事務局案という形だが、国の環境基本計画や他市の計画を見ながら、大垣として特徴を出していけるとしたらどうかという事で、こういう提案をさせていただいた。</p> <p>例えば、国の環境基本計画の中には、低炭素化や自然共生、資源循環が入っています。豊富な地下水というのは、大垣市の特徴を出すために、協働・連携は、大垣市として力を入れていきたいという事で、今回ご提案した。</p>
伊東委員	<p>現在の基本目標1から6の目標の中の個別目標を分類整理した時に、この5つの論点で整理されたということですか。</p>
事務局（青井対策官）	<p>そのとおりです。</p>
議長（永瀬会長）	<p>「豊富な地下水」の中の「希少生物の保護」ですが、対象は数少ない。ハリヨに限られるのではないか。むしろ「希少生物の保護」というより、ハリ</p>

議長（永瀬会長）	ヨを出してよいのではないか。
事務局（青井対策官）	はっきりと示すのも一つの手だと考えられる。
柳田委員	ホテルは地下水には入らないのですか。
事務局（青井対策官）	ホテルは「生物多様性」で、河川の生物になる。 河川のように栄養が無いと、カワニナ等が育たない。
伊東委員	次世代自動車という新しい言葉が出てきているが、例えば、電気自動車のことですか。
事務局（青井対策官）	電気自動車やハイブリッドカー、水素自動車です。
伊東委員	例えば、自転車をもっと利用しましょうとか、自転車に乗りやすいまちづくりはどこに入るのか。現行の「安心安全な交通体系」を分けたことにより、自転車の内容が無くなってしまわないか。
事務局（青井対策官）	あくまでも、個別目標にぶら下がる指標や具体的な施策として入れる事は可能。ただ、この個別目標の言い方で、「自転車」を入れていいのかという事になる。
成瀬委員	2番目の低炭素化の「公共交通機関の充実」に自転車は入らないのか。
議長（永瀬会長）	駅の駐輪場の整備という話であれば、公共交通機関の促進ということで、間接的な言い方で、自転車の利用が増えるのでは。
事務局（青井対策官）	大きく捉えると、温暖化対策の中に入ると考えられる。
成瀬委員	新庁舎の建設で、何かエコに関して計画されている事はあるのか。例えば、ハリヨやホテルが見れるなどビオトープなどはどうか。
事務局（青井対策官）	太陽光や地中熱による空調など、省エネに関するものはあるが、ビオトープは無い。 丸の内公園は別で、そこに市の魚等のプレート等を付けてもらう様、要望はしている。
成瀬委員	計画策定の趣旨のところ、「ハリンコが泳ぎ、ホテルが舞う 水都・大垣」とあるが、あくまでも目標という事か。
事務局（高木課長）	理想の環境像という事になっている。ホテルは将来的に可能性があるが。

事務局（青井対策官）	どうしても、湧水がある所でないと、ハリヨは生息が出来ない。
議長（永瀬会長）	昔は、自噴している所がいっぱいあり、そこにはハリヨがいたが、回復はしていても、自噴が増えてきている状況まではっていない。
柳田委員	災害対策に関する事は、環境に関係してくるのか。 川の整備などが関連してくるなら、連携がいるのかと思ったので。
事務局（青井対策官）	一応関係はするが、環境の部分ではなく防災対策という事で、生活安全課が主管になる。連携という話だと、こういう計画について、土木部門に資料提供をしてこういう施策で大丈夫かという確認はする。
横井委員	大垣市は水が特徴という事で力を入れていきたいところですが、全部を掲げて並行してやっていくのか、水を含め市民アンケートとかの結果を生かして、「満足度が足りない」とかの部分に力を入れてやっていくのか、どのように進めていくのか。
事務局（青井対策官）	個別目標にぶら下がってくる施策や、目標・基準値、そういったものを作成していく段階で、どこに重点を置くかというのは、当然出てくる。どうしても行政なので、予算的な部分もある。どこをやっていくのかというのは、内部で調整しながら、これから検討していく。
横井委員	それは、こちらから掲げていくという事は無いのですか。次世代に繋げていくためには、環境教育という事が必要だという話があったので、教育が重要なんだとなれば、大垣市としてはハリヨが泳げるくらいの環境になるような教育に力を入れていますとか。
事務局（青井対策官）	具体的な施策の案を頂ければ、例えば「協働・連携」の中の環境教育・環境学習の中に入ってくると思いますので、その中で目標等を重点化していく事も可能なので、どんどんご提案いただければと思います。
横井委員	市民の方に浸透していないような感じがしますし、アンケートの自由な意見のコメントを見ても、「大垣市で何が問題になっているのかが分からない」という方もいますので、もう少し市民に浸透するような方法があればいいなと思います。
柳田委員	先ほどの自転車の件で、自転車は次世代自動車よりもよりエコで、市民誰でもが努力すれば簡単に出来る事なので、自転車を「低炭素化」の中に入れて欲しいと思います。
事務局（馬淵部長）	見出しでは無くて、個別の施策の中で自転車を取り入れる事が出来ると思う。今は、見出しだけで、個別の施策とかをご提示していないので、皆様の

事務局（馬淵部長） イメージが湧かない部分があると思います。

事務局（青井対策官） これから、個別目標に施策をぶら下げたものを皆様にご提案しますので、その際に色々なご意見を頂くと、追加等可能です。

議長（永瀬会長） 今、意見が出なくても、メールや紙ベースで事務局へご意見をお願いします。  
それでは、他にご質問・ご意見が出なさそうなので、議題1を終了したいと思います。本日の議題は一つだけです。以上で議長の職を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

事務局（生活環境部長） 永瀬会長さん、ありがとうございました。  
それでは最後に、3番のその他について、何かご意見があればお願いします。

大洞委員 先ほど、越前大野の話があったが、きれいな街だと感心した。大垣の駅を出た時に、大垣市に住んでいる方が、大垣は自慢できる良い街だと言えるでしょうか。駅前通りや大垣城ホールのところ雑草が生えているのを、美しいまちと言えますか。一宮線の一部のところは、すごく美しいと言えるところもありますが、個人に頼り過ぎるのではなく、もっと皆で取り組まないといけないのではないかと。自分達の街を自分達できれいにするという意識が高まるような働きかけが必要だと思う。  
缶やタバコのみを拾っている方はあり、缶やタバコは減ったと思うが、雑草は酷いと思う。

事務局（高木課長） 市の方では、アダプト制度で企業や団体・個人の方に清掃活動をしてもらっているところがある。そういったエリアに看板設置により、皆さんに知っていただいたりする事を普及させるのは大事だと考えており、今年度看板の予算も付いたので、より普及するように努力していくし、県道等であれば、県等との連携など、注意して対応していきたいと思います。

服部委員 NPO 法人まち創りでは、今年4月から「ちょびっとボランティア」を始めた。第一日曜日に、若い人から年配の方まで、ゴミを拾ってもらう活動をしている。まだ始めたばかりなので、今後この活動が定着してきたら、草取りの方もやっていきたい。

事務局（生活環境部長） それでは、長時間にわたりご審議いただきまして誠にありがとうございました。  
先ほど、永瀬会長からもお話がありましたが、今後何かご意見等がございましたら、メールや文章でも構いませんので、事務局の方へお願いしたいと思います。

事務局（生活環境部長）

次回の審議会ですが、11月中旬から下旬に開催したいと思います。第3回の審議会では、計画の素案を提示させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして平成29年度第2回大垣市環境審議会を閉会とさせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございました。

**【閉会】**

（閉会 14時45分）